

会 議 録

会議名 (付属機関等名)	令和4年度 第1回 川西市総合計画審議会		
事務局(担当課)	総合政策部政策創造課		
開催日時	令和4年8月9日(火) 午後6時から		
開催場所	川西市役所4階 庁議室		
出席者	委員	伊藤 嘉余子、上村 敏之、片山 優子、神谷 牧人、 渋谷 和正、中野 雅文、新川 達郎、山本 利映 (敬称略)	
	その他		
	事務局	越田市長、石田総合政策部長、野田政策創造課長 他課員2名	
傍聴の可否	可	傍聴者数	3名
傍聴不可・一部不可の場合は、その理由			
会議次第	次ページに記載		
会議結果	審議経過のとおり		

令和4年度 第1回川西市総合計画審議会 次第

日時：令和4年8月9日(火曜日)
午後6時～

1．開会

2．報告事項

- (1) 第6次総合計画策定方針について 【資料1】
- (2) 令和4年度総合計画審議会のスケジュール(予定) 【資料2】
- (3) 総合計画策定過程に係る個別の取組みにかかる進捗状況 【資料3】

3．議事

- (1) 第6次総合計画の構成(案)について 【資料4 - 1、4 - 2】
- (2) その他

【参考資料】

- ・第5次総合計画(抜粋)

審 議 経 過

【開始時間：午後6時15分】

1. 開会

新川会長（以下、会長） 皆さんどうもご苦労さまでございます。コロナ禍ということでこうしたオンラインの形でございますけれども、本日はお集まりをいただきましてありがとうございます。事務局、欠席の方いらっしゃらないということでよろしいですか。（「松浦委員が欠席です」の声あり。）松浦委員が今日は欠席でいらっしゃいます。松浦委員以外の方皆さんご出席ですのでよろしくお願いたします。（この後、水野委員も通信不良により欠席となる。）

久しぶりですけれども改めまして今年度もよろしくお願いをいたします。今日、市長さんにもオンラインでご参加いただいております。最初に一言いただけますでしょうか。

市長 皆さんこんばんは。大変ご無沙汰をしております市長の越田でございます。今年度も、こういった素晴らしい皆さんと一緒に議論をしながら、川西のこれからの未来を議論できるっていうことを非常にわくわく楽しみにしております。

少し現状をご報告させていただきたいのですが、6～7月に「市長と語る かわにし Meeting」という形で、市内の全小学校区単位でいわゆるタウンミーティングを実施いたしました。事務局の日程調整のおかげで、最大1日3ヶ所、週末に5ヶ所とかそういったこともありました。各会場20人前後で、いいお話が出来たのかなと思っています。

特徴的なところは3つありまして、我々が無作為抽出で後押しをしたこともあったのですが、1つは非常に若い参加者の方が多かったと。これからのまちづくりをどうしようかと、赤ちゃんを抱いてこられる方もいらっしゃいました。お父さんのマイクをとって子どもが喋るとか。今までこういうタウンミーティングをやりたい、と思っていたことが形にできたのかなと。いろんな種をいただいたと思っています。

2つ目が、一方で今までタウンミーティングをすると、まちづくりにより積極的な、どちらかという目を見たら輝かした方が参加するというケースが多かったのですが、非常に切実な思いを持った方、もちろんその方たちの目が曇っているという意味ではないのですが、そういった方が今回多かったというのも特徴だったと思います。特に不登校の問題というのは本当に各地で出てまいりました。あとは、自分のお子さんのいろんな発達、特性のことを思って発言をされる保護者の方、ご自身が障害を抱えているということ発言される方、これが、かわにしMeetingがいろんな意見の出る場所として認知されたということなのか、もしくはもう行き場のなくなった声が、いよいよここで発言しないといけないという状況までなっているのか、ということまでは正直わからなかったのですが、ただ大きな課題だなと感じました。

3つ目はやはり、私がそういう思いがあるというのを皆さんに忖度していただいたのかもしれませんが、「子どもと触れあえて楽しかった、笑顔になった」、「子どもの成長を見られてよかった」、「近所の子どもにありがとうって言ってもらったことがよかった」。そういった「子ども」をキーワードにした幸せの形、というのもあったのかなと思っています。一方で、ほとんどの地域で「明石市みたいに（子育て施策に力を入れてほしい）」という発言がございました。川西市は明石市とは違う形の別のコンセプトを持った子育てとか、子どもを大切にす

るまちづくりをしたいなとは思いますが、「子ども」と言っても様々な切り口でのまちづくりがあるんだなということを改めて実感したところでございます。

あと、これは進行形なんですけど、地域でまちづくりに主体的に関わっていただいている皆さん、コミュニティの役員の皆さんとも、順次、意見交換をさせていただいています。人材不足の問題から公共交通の問題など、いろんな話をお聞きしております。

一つの大きな共通する言語、しっかりとした目標をつくっていくために、今までいただいたものを具体化、ブラッシュアップするために、ぜひ今日も様々な観点からご議論をいただければと思いますので、よろしくお願いいたします。

会長 どうもありがとうございました。

ただいま市長さんからございましたけれども、私どもの審議会はしばらく開催できませんでしたが、市のほうでは、タウンミーティングを始めとして着々と準備を進めておられます。また後程、この辺りのお話もいただければと思っております。

本日、令和4年度に入って最初ということでございますので、昨年度3年度の審議会で、策定をいただきました総合計画の策定方針、それから、今年度、どういうスケジュールで進めていくのか。この間、先ほどのタウンミーティングもそうですけれどもいろんな取り組みをしていただきました。事務局からまずはその説明をお願いしたいというふうに思います。委員の皆様方には恐縮ですけれども、事務局説明が終わった後、ご意見あるいはご質問をお伺いしたいと思っております。

それでは恐縮ですが、事務局のほうからは本計画の策定方針、それから、本年度4年度のスケジュールそして、個別の取組のこれまでの進捗等々につきましてご紹介いただければと思います。

よろしくお願いいたします。

2. 報告事項

事務局 それでは先ほどご説明をいただいた3点につきまして、資料に沿ってご報告したいと思います。ファイルの共有をいたしますので少々お待ちください。画面のほう、切り替わっておりますでしょうか。

まず、【資料1】としまして「第6次川西市総合計画策定方針」を画面にお示ししております。

この中身につきましては令和3年度の審議会で皆様方にご審議いただき、3年度末に確定ということでご承認いただきましたので、この場では中身の協議等ではなく、確定したものについて改めてお示するという程度に留めさせていただきたいと思っております。また、今年度の審議会につきましてはこの策定方針をベースにいろいろな場面で事務局案等をお示しますので、そういった時にもご意見をいただければと思っております。策定方針については以上です。

続きまして、令和4年度のスケジュール予定につきましてご報告いたします。画面また切りかわりまして、令和4年度の審議会のおおよその開催時期と、そこで取り上げる主な議事の内容について【資料2】でまとめております。昨年度との大きな違いといたしましては、昨年度は策定方針についてご審議中心にさせていただいたのですけれども、今年度は、総合計画の核となる基本構想ということと、そのあとに基本計画という大きな2点、こちらが中心となっ

てまいります。それらをご審議いただくにあたっては、現在の第5次総合計画の評価といった部分も振り返りながら、第6次はどうしていくべきかという流れになってまいりますので、そのあたりの協議資料につきましても順次お示しする予定です。

また、そういった議事と併せていろいろな取組みも行っておりますので、そういった内容につきましても都度、ご審議の内容に応じたタイミングで皆様にお示しをしまして、また議論を深めていただければと思っております。

続いて3点目ですね、少しお待ちください。【資料3】のこれらが今、総合計画の策定過程において、市で進めている個別の取組みとなります。令和3年度の最後の審議会が令和4年2月でして、そこからおよそ半年が経過しておりますので、その間に進んだ取組みを今回ご報告いたします。

本来であれば、この色づけをした4つの取組みのご報告をする予定でしたが、このうちの3番と4番につきましては、コロナの感染拡大の状況等を受け実施時期の見直しをしておりますので、また後日、詳しくご説明したいと思います。

今回は残る2点について、簡単にご報告をしたいと思っております。まずこの表は、川西市民の方を概ね年代であるとかいろいろな属性に分けて区切り、関わっていただく取組みを右側に記載してございます。

については、これは全国でも珍しいのではないかと思います。未就学児の方たちにも「まちづくり」というところに何かしらエッセンスをもらおう、ということで取り組んだものでございます。とは言いましても、小さい子たちに「こんなまちになったらいいな」というテーマで尋ねてもなかなか難しいところがありますので、七夕の短冊を飾っておられる園所にお声がけをして、趣旨に賛同いただいたところに提供してもらいました。大体860枚ほど回収しまして、園児たちがどういった夢とか願いごとを書いたのかということを集計してみました。

集計に際し「テキストマイニング」というツールを使いまして、860の願いごとを、およそ単語ごとの頻出度合い等に応じた大きさでこのように表示しております。この図で言うと「じょうず」とか「かぞく」「すごせる」とか、そういったことを書いている園児が多い傾向にあると言えます。

次の図は単語の相関図のようなものになっておりまして、「かぞく」とか「まいにち/すごせる/げんき」、このあたりですと何となく、家族のことを書いているケースが多いのかなという印象を受けます。願いごとをまとめて数が多かった内容を実現しよう、とかそういう趣旨ではないのですが、総合計画の中身を練っていく中で「子どもたちはこういう願い、こういう希望を持っているんだな」ということを念頭に置きつつ、いろいろなところにこの要素を反映できたらと思っております。

続いてこちら は、先ほど市長のほうからも説明がありましたが「市長と語る かわにし Meeting」というものを市内14ヶ所、小学校区ごとに開催いたしました。小さなお子様連れの方とか、いろいろな年齢の方がいらっやいまして、たくさんの方に自由にご発言いただけた場だったかと思っております。

そのミーティングの中で、参加者に「最近あなたが笑顔になったできごとは何ですか」ということを冒頭に尋ねまして、後半ではそれをもとに「みんなが笑顔で暮らせるためにどんなまちになったらいいと思いませんか。また、あなた自身はどんなことをしていきたいですか」と問いかけ、どういうまちになったらみんなが笑顔で暮らせるだろうか、ということを考えていた

できました。この詳しい内容につきましては、今分析等を行っておりますので、第2回で詳しくお示ししたいと思います。

ここでは、参加者のアンケートを簡単にまとめております。これを見ましたら、半数くらいが10代未満から50代の方ということで、一般的なタウンミーティングに比べますと年齢層が若干若いのかなという印象です。満足度につきましても、満足・やや満足と答えていただいた方が全体の約8割いらっしゃいまして、「普段見ない方の声を聞けた」とか、シニア層の方から「若いお母さん、お父さんの意見が聞けたのが新鮮だった」というような、「世代を超えた様々な方の話を聞けた」というところへのご感想が多かったように思います。

ここから後ろの資料は、広報誌でかわにしMeetingの参加者を募集した際の特集記事になりますので、またご確認いただければと思います。こちらの説明は以上です。

会長 どうもありがとうございました。ただいま策定方針、それから今年度のスケジュール、そして七夕短冊やかわにしMeetingの実施状況についてご説明をいただきました。

かわにしMeetingでの成果や具体的なご意見等々についてはまた次回詳しくご報告いただけるということでしたが、今日の段階で各委員の皆様方からご質問あるいはご意見ございましたら、お伺いしたいと思いますがいかがでしょうか。手を挙げていただいても結構ですし、ご発言いただいても結構ですが。どうぞ上村先生。

上村委員 先ほど一般的なタウンミーティングよりも、若い世代がこられてるって話があったんですけども、これは何か原因がわかっているのでしょうか。

会長 はい、事務局お願いします。

事務局 今回、広報誌や市のウェブサイトで参加者を募集したのですけれども、併せて15歳から45歳の方1,700名を無作為で抽出し、招待状を送って参加を呼びかけた。これにお答えいただき参加された人が多かったのかな、と感じています。

会長 わかりました。ありがとうございます。そのほかいかがでしょうか。

(「なし」の声あり。)

かわにしMeetingにつきましては今後、しっかり議論をしていくということになりそうですので、特になければご報告までと思いますが、よろしゅうございますでしょうか。

(「はい」の声あり。)

それでは本日のメインの議題に進まさせていただきますと思います。本日の議事の1番目、第6次総合計画の構成案についてでございます。これにつきまして、事務局から少しご説明をよろしくをお願いいたします。

3. 議事

事務局 では、第6次総合計画の構成案につきまして、また資料をもとにご説明したいと思います。画面のほう共有いたします。資料としましては、【資料4-1】及び【資料4-2】と、あと【参考資料】として第5次総合計画の抜粋を皆様にお送りしておりますが、説明する

にあたり、事務局のほうでその3点を合わせた形で適宜補足しながら進めたいと思っておりますので、こちらの画面を見ていただければと思います。また、お手元の資料と、一部ページ番号が一致しない場合がございますのでご了承ください。

まず、総合計画の構成を見直すという点で、具体的に何を見直そうとしているのかというところを、最初にご説明したいと思っております。それに当たりまして、まずこれまでの総合計画が、どういう位置付けで変遷してきたのかというところをご説明します。

こちらは第5次総合計画の2ページに載っている図になります。昭和44年から第1次、第2次と総合計画がつくられていく中で、第4次と今の第5次総合計画の間に大きな転換点がございました。それまでは、地方自治法上で策定をすることが義務づけられていたのですが、平成23年に法律が改正されまして、基本構想の策定義務がなくなりました。ですので、現第5次総合計画につきましては、市の条例に基づき「将来における本市のあるべき姿と進むべき方向性について定める指針」として、「市民とまちづくりの方向性を共有する」という視点を重視した、というところに特徴があります。

今お示ししているこちらの図(【資料4-1】3ページ)が、条例で定められている内容になりますが、それまで行政計画として策定してきたものを、第5次総合計画で初めて「みんなで共有する計画」という視点でつくった点に特徴があります。その視点は、第6次総合計画でも継続していきたいと考えております。

その一方で、総合計画の3層になっている中の基本構想・基本計画というこの2点が冊子という形で公表されているのですが、この冊子が「基本構想等を市民と共有するツールとして十分に機能していたか」という点につきましては、改善の余地があるのではないかと考えておりました。それが今回の「構成の見直し案」としてお示しするものでございます。

今皆様にお示ししてお示ししているこの形が、次の第6次総合計画で重視したいポイントと考えております(【資料4-1】4ページ)。

いずれも見直しのポイントとしましては、これまでと同じく、「市民とまちづくりのビジョンや方向性を共有する計画」とするためにどのような工夫や改善を図ればよいか、という視点で考えております。ここに挙げたものにつきましては、これからご説明する中で補足したいと思っております。

まず、基本構想についてなんですけれども、第5次総合計画で、このまちづくりビジョン、めざす都市像というものを市民と十分共有できていただろうかというところについて確認をしたいと思っております。ちなみに、第5次総合計画の目次では、第2部でこの基本構想が示されていまして、めざす都市像は「であい ふれあい ささえあい 輝きつなぐまち」というフレーズになっています。

これを共有できていたかどうかを図る一つの方法としまして、総合計画の認知度を、直近のアンケート結果からこちらに引用してございます(【資料4-1】7ページ)。令和3年度の「川西市民実感調査結果報告書」によりますと、総合計画の認知度というところにおいては、80%の方が知らないという回答をされていまして、これから見ると総合計画というものが、市民の皆様にあまり認知されていないという状況だと言えます。

1点補足をすると、私どもはこの認知度を上げさえすれば、まちづくりビジョンを皆さんと十分に共有出来ているとは考えてはおりません。ただし、みんなでつくる、みんなで共有する計画とするためには、この読まれていない、知られていないという現状も改善していく必要が

あると考えております。なぜ読まれていないのかというところを考えた結果、まず1つは、その冊子が、大変ボリュームがある形になっておりまして、これによって手に取った方が、最後まで読もうとなかなか思えないのではないかと考えました。

続いて、その計画の中身ですね。主に策定した当時の現状と課題について詳しく記述しているのですが、当時最新のものとしてでき上がっても、時間が経てば経つほど社会情勢も変化し、「現状と課題」も変化します。結果、形骸化を招いてしまう。読もうとしてもちょっと古い感じを受けて、あまり読まれなくなる。そういうことも考えられると思っております。

これを受けまして、次の総合計画策定時には、市民と真に共有すべき内容を選択し、その上で要点を絞るなどして、冊子の構成や分量を大きく見直す必要があると考えました。こちらについても、もちろん冊子を薄くすること自体が目的ではありません。市民と何を共有するのか、また、なぜそもそも共有する必要があるのかという原点に立ち、「将来における本市のあるべき姿と方向性」をわかりやすく伝えることで、様々な人が川西のまちづくりに関わるきっかけとしたい。そういう視点から、冊子の構成を見直すということも手段の一つであると考えております。

次に第5次総合計画の一つの特徴としまして、各施策を分類するために、「市民生活の視点」ということで「ライフテーマ」「ライフシーン」という独自のカテゴリを設定しています（【資料4-1】9ページ）。ですが、この分類によって一部情報の検索が難しいケースがあります。第5次総合計画の44・45ページに、そのライフテーマ・ライフシーンに沿った全49の施策が掲載されています。そこから知りたい施策を見つけようと思った場合、4つのライフテーマと10のライフシーンの中から、順番に正しく連想していかないとたどり着かない、そういう仕組みになっております。例えば農業振興に興味がある人がそのページを見ようと思った場合には、「暮らし」「にぎわう」というこの組合せを連想して読み進める必要がありますので、次期総合計画では、この部分をシンプルにして、知りたい情報へ直感的にアクセスできる構成にしたいと考えております。ここでは案としてお示ししますが、施策の分類をこのように見直すことで、今の49施策と同じようなものを15程度にする（【資料4-2】）。これだけでも、情報を整理でき見やすくなるのではないかと今考えております。

次に、基本計画の部分について検証したいと思っております（【資料4-1】10ページ）。基本計画につきましては、総合計画の進行管理や達成度を測る仕組みを持っているのですが、それが十分に機能していたかということに着目したいと思っております。

現在、基本計画では策定ときに設定した指標値の増減が、総合計画全体の達成度を測る基準となっています。それによって、策定後新たに実施する取組みや、当初想定していなかったコロナ対策、こういった取組みも全て策定当時の指標によって一律評価される仕組みとなっていますので、その取組みの効果を十分に図れないケースがあると考えております。

また、現計画では基本計画を前期・後期と分けておりまして、5年ごとにその改定も行ってきましたが、それぞれ2年ほど前から準備が必要な点を踏まえると、策定後すぐに次の見直し作業が始まります。この策定・改定の時期に拾えた社会情勢の変化というものには対応できますが、それ以外の時期に起こった変化にはなかなか対応しきれないというデメリットがありました。ですので、総合計画全体に機動性を持たせるために、基本計画の下の実施計画という、毎年見直しを図るこの部分にも評価機能を持たせることで、全体的に弾力的な構造としたいと考えております。

今申し上げたことをこの3層の階層に当てはめた図がこちらになります（【資料4 - 1】13ページ）。第1回では、これらのうち特に基本構想について、第6次総合計画の冊子として見たときにどういうイメージか、というところを具体化してお示ししたいと思います。それがこの資料になります（【資料4 - 2】目次）。これが第6次総合計画の現在の目次案ですけれども、第5次と比較しまして「できるだけシンプルに」かつ「市のめざす姿と方向性を、市民の皆様と共有できるようわかりやすいつくりをしたい」という点を意識したいと考えております。

それを具体化したイメージが、次のページ「1市の未来像」になります。便宜上、今は第5次総合計画の将来都市像を当てはめているんですけれども、この左上の部分に、まず第6次総合計画を象徴するフレーズや文章が入る予定です。ただ、そういった抽象的なキーワードだけではなかなか中身が伝わりませんので、将来都市像を解説する意味で、その下にいろいろな分類、グループ化をしております。

右側に書かれている6つの項目は、冒頭でご報告した総合計画の「策定方針」から引用しています。これらにつきましては、いずれの分野、いずれの取組みをする上でも常に意識をして「こういった視点に立って進めていこう」という行動指針になります。

次のページに移ります。こちらの「期間」につきましても「策定方針」から引用しています。これまで基本計画の部分は先ほど申し上げた通り、前期、後期と分けて、決まった時期に変えてきましたが、機動性を持たせるために今回から8年間へと見直しております。その代わりに、計画期間中に社会情勢が変化した場合などには都度見直しを検討する、そういうつくりをしたいと考えております。

以上が、今回、皆様にお示しした資料の説明となっております。

会長 皆さん、ただいまご説明をいただきました総合計画全体の構成、そして基本構想の具体的なイメージをまずは共有していただきました。ただし、内容についてはご説明にありましたように、むしろ今日これからご意見をいただいて、最終形を、一定方向づけていければと思っております。

ここまでのご説明につきまして、委員の皆様方からご質問、またご意見をいただければと思いますのでよろしく願いいたします。ご自由に手を挙げていただいても結構です。伊藤委員どうぞ。

伊藤委員 伊藤です。ご説明ありがとうございました。中身の細かいところの議論に入る前にちょっと大枠みたいところで、質問とか提案みたいのところなんですけど。先ほどの市民の方のアンケートの結果で総合計画を知らないっていう人が8割っていうようなことだったんですけど、その計画そのものを知らない。これも大事かもしれないんですけど、中身を知ってもらっているとか、川西市がどこに力を入れているかとか何をしようとしているのかという、この中身を知ってもらうっていうことが大事なのかなと思ったりします。

先ほど、計画の今後の方向性みたいなの中で、そのボリュームがちょっと多いのということだったんですけど、総合計画の本体そのもののボリュームは、あってもいいと思うんです。実現可能性とかも踏まえて、妥当な量にするっていうのは大事だと思うんですけど、市民向けに、A3両面1枚とか簡易版みたいなものがPDFで作られていて、例えば川西市のホームペ

ージのわかりやすいところにバンと貼ってあって、誰が見ても一目で「この4本柱でやろうとしているんだな」とか、「こういう目標を立てているんだな」ということが分かるようにする、みたいなことが大事なのかなと思いました。

会長 どうもありがとうございました。市民との共有ということで今、伊藤委員からご意見をいただきました。いろんなアイデア、考え方があろうかと思います。各委員からいただいきたいと思えますし、また事務局のほうからも、ご説明が加えてございましたらよろしくお願いたします。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ澁谷委員お願いします。

澁谷委員 冊子以外でまちづくりの発信をどういうところでやっているのかな、っていうところがちょっと気になったのと、私も今まで川西に住んでいるんですけど、やっぱり知らないっていうほうの人間でして。知ってみたいけれども、発信の場所を知らないところがあると思うんです。

ということで、例えば今回つくらせていただくビジョンに対して、すごく目につくところにパネルを置くであったりとか、広報誌の1ページには絶対にそれが載っているであったりとか。また、QRコードで先ほどおっしゃっていたようなPDFで作成されたものが携帯で見られるとか。そういう取り組みをしてあげると、もっとわかりやすく、共有できるのではないかなと思いました。ありがとうございました。

会長 具体的な方法まで含めてお話をいただきました。神谷委員お願いします。

神谷委員 似たような意見ではあるんですけども、冊子だったり計画のボリュームを小さくすることは特にしなくていいのかなって。やりたいことをちゃんとやればどうしてもそこは膨らんでいくし、きちんとした情報を手に入れたっていう人向けにはきちんと載っていいのかなと。ただ、色んな入口があってもいいのかなと。

最近はテレビ離れとか、YouTubeも最近は減ってきていて、15秒のインスタくらい。そこからホームページに飛ばすとかYouTubeに飛ばすとかっていうので、うちも広報戦略でいろいろ考えているんですけども。インスタも、広告で地域やエリア、年齢層を限定できるみたいなので、例えば市長が保育園を訪ねたときに、15秒くらいで園児とこういうふうにやってきました。そこから、「子育て施策はここに」みたいなリンクに飛ぶとか。あるいは川西市の起業家を市長が訪問して、「こんなお店が増えるといいですね」から「川西の産業に関してはこちら」みたいな。他にも、福祉施設を訪ねた際に「川西の福祉施策はこちらから」っていうような。読みたい人はきちんと読みたいと思うので、そういう感じでもいいのかなって考えていました。ありがとうございました。

会長 むしろ、お客様というか市民の関心というのもしっかり捉まえて、そしてそれに応えられるような、そういう計画の共有の仕方ですね。したがって、その応えられる範囲で言えば、やはりきちんとした計画をちゃんとつくってないといけないということになるんだろうと思いますが、そういうアプローチの仕方をしてはどうかということでご意見いただいております。そのほか、いかがでしょうか。中野委員お願いします。

中野委員 事務局の説明ありがとうございました。方向性としては全くその方向でいいと思いますが、市民の方によく認知をしていただくという意味では、施策全体を示してそれをご理解いただくという方向に持っていくのか、あるいは目玉の施策を全面的に出すことによってそれを入口として、いろんな施策に興味を持ってもらうという方向でいったほうがいいのかというのはあると思います。

市としてあるいは市長として、「ここが目玉です」と、「私どもの市はここを重点的にやろうとしているのです」ということを前面に出して、アピールしていくほうが、市民にとってはわかりやすいのかなと思います。

千葉県の流山市はまさしくそういうアプローチを採っていて、「母になるなら流山」と、子育て世代を全面的に支援するということをアピールして、市民の皆さんがそれを取っかかりとして、市がやろうとしていることが明確にわかってくる。そういうところから興味を持っていただいて、高齢者、あるいは農業施策とか環境施策などがどういふふうになっているのだ、ということに興味をもって、冊子を見ていただけたらいいかなと、そういうアピールの仕方もあるのかなと思っています。

会長 ありがとうございます。市民の方々に、これこそ川西市だというふうにしてもらえるようなキャッチフレーズ。それを梃子にして、計画に関心を持っていただく。まずはその入口のところから市全体のイメージにぴったりくるような、そういうキャッチができるか一番いいのかもしれないですね。ありがとうございます。そのほか、いかがでしょうか。上村委員お願いします。

上村委員 地方自治法上の位置付けが変わった段階で、総合計画の性格が相当変わったと思いますので、策定することが目的ではなく、その総合計画の策定を手段として何をしたいのかということとはとても大事だと思っています。

市民が川西の未来を描くこと。その未来に向かって何が課題なのか市民と共有すること。その課題解決のために何をやるのかを明確にすること、これがまさに先ほどの三角形。それを、策定を通していかに市民に共有していただくのか。そこが勝負なのかなと思います。

認知度がどうなのかっていうのは、実際は結果論であって、市民の参画度合いが高ければ認知度が高くなりますし、あと住民の意見が反映されると自分事になるので、おそらく認知度が高まると思います。なので基本的には、この策定過程における参加度合いをどうやって高めるのか、というところに注力するのがベストなのかなと思います。

子どもを大切するという視点でいうとですね、やはり子どもの意見を徹底的に聞くということをやってみたらどうかと思いました。もちろん、冊子の構成とか広報の在り方も大切だとは思いますが、冊子の構成については私は事務局の意見に賛成です。

あと、皆さん言われたように、いろんな広報のやり方がありますが、やはり根本的には参画度合いをどうやって高めるのか、市民とどうやって課題を共有するのか、そのためには何をすべきなのか、そっちのほうが重要なのかなというように思います。技術的なところに入り込むのじゃなくて、もっと理念的なところから議論をしたほうがいいかなと思います。

会長 どうもありがとうございました。計画そのものも市民と策定するということから、市民の計画になっていく。計画を市民が一緒につくっていったその実績こそ、市民のものになっていく第一歩ということでお話をいただいたかと思います。

この辺り、もちろん先ほどの事務局のご説明でも、今年度いろんな市民参画の方法について検討はしてこられているところではあります。また改めてしっかりと検討をしてみなければならぬ点もあるのではないかと考えております。

そのほか、いかがでしょうか。関連してでも結構ですが。あと中身はまだ始まったばかりで、プレスト段階だと思って、散らかってもいいかなと思います。どんどん散らかしてください。

神谷委員 この「であい ふれあい ささえあい」とか韻を踏まないといけない感じ。海外でこういう計画つくるとき、どんなふうに行っているかわからないんですけども、日本は詫び寂びとか俳句とかああいうのがあるのかな。それをトップに持ってこないといけないのかな、とか考えていました。

先ほどの中野委員の話はすごいわかりやすいなあと思っていて。中野委員がおっしゃるように、おそらく「子育て」とか何かははっきり言えば、それを見た高齢者とかが「何で子どもばかりなの、自分たちの」というので読むかもしれないし。決してやっていないわけではなくて、目玉があれば、「他はどうなっているの」という視点で、ストレートに入ってくるような気がします。それこそ、みんなが覚えるようなものを作ってほしいのかなって。

かわにしMeetingって世代を分けずにやったんですね。高齢の方とかも若い方とかも一緒についていう、あれがすごいなあと思っていて。

僕、主に精神福祉とか医療の分野なんですけども、フィンランドで「ダイアログ」という対話の文化があるんです。そこでは誰かが結論を決めて話すとか、話をまとめたりしなくてもいいんですね。例えば、母親が子育てに不安があるって話している隣で、高齢の方が、いや自分は老後の生活が...という話をする。それを聞いた人が、子育てばかりじゃなくて、ほかの面でも困っている人がいるんだな、と。これを分けてしまうと、みんな自分だけの問題を行政に全部向けてしまう。でも予算というのは限られた分しかないんで、今回はこのやり方でこう分けてやります、っていう。もちろん細かい問題を聞いていく時には、ある程度グルーピングが必要だと思いますけど。

このかわにしMeeting、僕は継続することが多様性であり、皆さんの参画じゃないのかなと思いました。行政に丸投げじゃなくて、一人一人が、そういう問題がこの地域にあるんだっていうのがわかって、じゃあ何を優先すべきなのかとか。あれはとっても多様性があっていいなと思いました。

会長 先ほどの上村委員の話とも通じますが、やはり市民の参加、それも様々な意見が交錯できるような。そしてそこで市民が自ら学び、そして成長をしていく。そんなチャンス、参加の場というのができる、この計画も共有できるのかなあと思いながら、お話を聞いていました。もちろん、そうした計画に皆さんが関心を持ってもらうためにも、流山市ではありませんが、やっぱりそういうキャッチーなものも要るのかもしれない。

なお外国の計画ですと、「何とかプラン・何年」とかっていうような割と素っ気ないのが多

いので、日本のこういう計画の名前のつけ方は、それなりにいいなと個人的には思っております。

そのほか、いかがでしょうか。中野委員、手が挙がっておりますがいかがですか。

中野委員 神谷さんの話を聞いていて思ったのですが、かわにしMeetingはかなり重要だと思いますので、きっちりと継続していく必要があるかと思えます。けれども単にミーティングというと、自ら手を挙げて参加してくる人の意見しかないわけなので、もう少し広く興味を持ってもらうためには、さらにどうしたらいいのかというようなことを考えたときに、神谷委員が「子どもの意見を徹底的に聞いたら」というようなことをちょっと言われたのですが。

それに関して、自分が住んでいるまちがどういうことをめざしているのかということ、子どもを中心に広げていくってということが、親にも興味を持ってもらうということにも繋がるのでは。

小学校なら小学校なりのまちづくりを題材にした授業をすとか、中学校は中学校なりの題材で、川西市がどういう方向を向いているのかというようなことを、少なくとも1年に1回くらい議論をする。あるいはみんなで話し合う場を持って、自分が住んでいるまちに興味を持ってもらう。それを子どもが家庭に持ち帰ったときに、親も無関心ではられない、ということになるのかなあと。また、子どもにも子どもなりに興味を持ってもらう。その「興味を持ってもらう」ということが重要なかなと感じました。

会長 ありがとうございます。本当に、子どもたちの意見をしっかり聞いていくって大切です。少しそこは、集中的に聞いていくということもあっていいのかもしれない。

もう一方では、主体的にご参加にならない人たちの声を、どういうふうに集めるか。そうした、普通の人々が普通に关われるような仕組みとして、ミニパブリックスと呼ばれている手法も開発されていますので、また今後検討して見ていただければと思います。そのほか、いかがでしょうか。どうぞ山本委員お願いします。

山本委員 皆さんが話されたこと、もうすごいなと思って。ちょっと別の視点から言うと、今回はかわにしMeetingに地元のPTAとして参加させていただいて、そのときに思ったのは、今回初めての参加ってというような方も周りに結構いて。私は役員の人たちに声をかけられていなくてもきっと参加したんですけど、この8年という長い総合計画の中では、特に子どもの成長とともに課題感や悩みも変わっていくのかなと思います。

かわにしMeetingに参加できてすごくよかったなっていうのと、その無作為抽出っていうのが川西市のすごい特徴なのかなと思って。私が所属するファザーリングジャパン関西っていうところで、こういった審議会に参加しているメンバー同士で意見交換をしているんですけど、「無作為抽出で市民会議をして、100人以上が意見を出し合った」という川西市の話はすごく驚かれて。なおかつ、ほかの審議会の話をしていると、やっぱり市民の意見を聞くとはいえ、結局予定調和で、意見は聞くけどまあ参考にしますっていう程度で、ほとんど反映されない。そういった意味では、川西市は何かこう、小さな意見を拾っていただけているなっていうのを感じるところです。

やっぱりタウンミーティングみたいな形は続いていけばいいなっていうのと、総合計画をどう

いうふうに活用していくか。皆さんが意見を出せる場がありますよってというのは、最初もそうですし、途中途中で常に発信していく必要があるのかなと。計画のつくり方ももちろん大事ですし、発信方法も大事かなと思いました。以上です。

会長 ありがとうございます。

計画の中身ももちろんですが、今ご指摘いただいたように、計画をつくっていくプロセスづくり、ここは皆さん方からも繰り返しお話しいただきました。

幅広く参加いただくための無作為抽出という話もありましたが、そうした参加の機会をどれくらいつくるのか。そして、計画そのものを一緒につくる中でどう共有していけるか。そこを深められるかで、この計画が本当に市民のものになるかどうかという分かれ目かもしれません。

そのほか、いかがでしょうか。片山委員何かございますか。

片山委員 milifeという広報誌があるんですけども、すごくデザインが良いので注目されている広報誌だと思うんです。それだけ良い広報誌なので、若い世代からお年寄りまでが見る中で、先ほど皆さんおっしゃられたQRコードから飛ぶような、そういう二段階の発信の仕方で日々届いていけばいいなって。

それと、川西のことが大好きな集団というのがこの川西に一定数いると思うんです。川西で生まれ育った人だけかというとは決してそうではなく、案外他から越してきた方とかが、私が知る限りでは多かったですね。客観的に魅力をわかっているというか、他と比べることができることで、魅力に感じる部分があるという。なので、無作為抽出の逆でそういう方を集めて「川西市がどれだけおもしろすぎるところなのか」というマニアック会議みたいなものを開いて、みんなで共有すると。そうしたら、自然と川西の良いところが出てくるのではないかなと。すみません、今突発的に思っています。

会長 ありがとうございます。川西大好きグループのアイデア出し、なかなか面白そうな会議だと思いながら聞いていました。ぜひ事務局でも、考えてみたらどうでしょうか。

いろいろいただいてきましたが、そのほか、いかがでしょうか。特に、市民の皆さん方とどう共有できるか、あるいは市民とともにつくっていくような計画にするにはどうしていったら良いのかということについては、本当にいろんなアイデアをいただきました。

プロセスから市民とともにあるような計画づくり、そして、同時に市民の方々の関心をしっかりと繋ぎとめていけるようなわかりやすさ、あるいはキャッチないしはスローガンを明確に示していける、まさにこれだというようなものをきちんと掲げてはどうだろうか、というお話をいただきました。具体的な手だてとして、様々なメディアの使い方や、あるいは活動の広げ方についてもご意見をいただいておりますが、もう一つ重要なテーマとしていただいているのが、特に8年間の計画ですので、途中で見直すときにどうしたらいいんだろうか。この3年だけでもコロナでこれだけ変わってしまいましたので、どんどん時代が変わる中でどういうふうに対応していく計画になったらいいのか。このあたりも併せてお知恵をいただければと思います。もちろん、市民の計画にするためのアイデアも併せていただければと思います。

ご意見を、あるいはご質問の形で結構ですが、いかがでしょうか。出にくいですかね。出

にくいときは市長さんに振るという手もあるのですが、何かしゃべれそうですか。

市長 ありがとうございます。

私の政策理念としては、子どもから始めるということはもう決めていると。ただ、やはり今まで悩んできている部分としては、かわにしMeetingのご感想の中でも「子どもばかりの話になったら、俺たちは」という年配の方からのお声なんかがありました。その方も、お孫さんとか地域の子どものお話をさせていただいているんですけど、それでもやっぱり、疎外感を持たれるのだなというのは感じました。

ただ一方で、若者世代からすると「これだけ子ども子どもって言っているのに、川西はお年寄りばかりのことをやっている」と言われる。この矛盾に対して明確なメッセージをしっかりと出していくことが、結果的にはまちの信頼に繋がるなということを感じました。

あとは、やはりかわにしMeetingのアンケートでも、30%が市長に会いたかったとか市長に話をしたかったという。これは越田謙治郎というキャラクターではなく、川西市長という存在に対してということで、きんたくんと一緒なのかなと思っておりませんが、「子どもたちに」というのは教育委員会とも話をして、そこは入れていきたいなと思います。

特に教育行政となると市長も介入がしにくい、行政委員会としての独立性がありますが、やはり子どもたちの意見とか保護者の意見に対して指導主事が判断をするのではなくて、民意に基づいて教育委員会の委員が判断をするべきですし、そこに対して、子どもや保護者がしっかりと意見を言える場所があまりにもなさすぎると。それが学校現場と保護者の皆さんとの間に乖離があるのかなと。

まちづくりとなれば私は先頭で入っていきますが、子どもの時に「市長と膝を交えて喋ってんで」という思い出があると、まちに対する愛着は出てくるのかなということで、少し勇気がある発言ではあるのですが、やはり子どもを前面に出していきたいということ、今皆さんのお話を聞いて、改めて決意のようなものを感じました。

あとは、やはり総合計画のキャッチコピーの何が悪いかということですね、みんな使わないんですよ。1回つくったキャッチコピーを使わないというのが、やっぱり自治体最大の問題です。

今の川西は「さあ、かわにし新時代へ」というのがあって、私が書類に入っていないのを見つけては入れる入れると言いつけたので、何となく普及し始めましたけども。やっぱりキャッチフレーズを1回決めたら、広報誌では絶対使うというような徹底ですよ。徹底していけば、多少とがっていてもブレずに、許されるのではないかということを感じました。自虐的には「明石には勝てないけども、明石とは違う形で子どもを幸せにします」という、一番走っているところにくっついたキャッチをつくるなんていうのは、戦略的には面白いなと感じたんですが、その辺はまた専門家のご意見いただきながら。

皆さんのディスカッションを聞いて、私としても決意をしたものがある、ということをご報告とさせていただきたい。

会長 ありがとうございました。無茶ぶりにも関わらず丁寧にお応えいただき、ありがとうございました。明石に負けない子育て都市として頑張りましょう。そのほかいかがでしょうか。

どうぞ上村委員お願いします。

上村委員 今、市長の話聞いて、明石とは違う形になるということですけど、要は、「子どもがまちづくりに参画するまち」になるっていうことなんじゃないかなと思うんですね。ただ、そういう理念でどこまでできるかちょっとわからないんですけど、そういうイメージでまちをつくるということなのかなと思います。つまり子どもの参画をどうやって進めるのかっていうところなのかなと思います。

でも言うは易しで、やろうと思うと相当大変なのかもしれません。子どもには施策のことなんてなかなか説明するのも難しいし、市がやっていることと国がやっていることと県がやっていることは違うということも、これは大人でも区別するのが難しいので。ただ、自分たちが生きている川西市が将来こんな姿になってほしいとか、そういう地域の夢みたいなものは、子どもたちに聞いてもいいんじゃないかなって思いますし、そのためには何したらいいんだろうっていうことを、みんなで話し合うような場っていうの、つくっていただけるとすごくいいなと思います。

あと教育委員会との関係はとても難しいと私は思います。そこらの関係はうまく調整しながら、それも行政の皆さんに任せるしかありませんが、そういうところに注力していただければと。先ほどどなたかが言われましたけど、保護者の方も、多分そういう動きに関心を持たれるし、結果的には多く参加されるんじゃないかなと思います。

総合計画をそういう形で作るんだってというのは、多分ほかにはないような特色になるんじゃないかなという気がしました。

会長 ありがとうございます。伊藤委員どうぞ。

伊藤委員 すみません、この話の流れの中で。この間の6月の参議院会議で、児童福祉法の改正法案が可決されました。令和6年度からの施行の改正法案なんですけど、「子どもの意見を聞く仕組みを都道府県でしっかりつくること」ってのが努力義務として課せられて。市町村ではないんですけども、つまり行政がちゃんと子どもの意見を聞いて、それを子どもの人生とか生活の重要なことにしっかり反映させる仕組みをつくりましょうということになったので、その流れの中でも、非常に大事なプロセスになるのかなと思ったんです。なので、先ほど上村委員の「子どもの意見を聞いて、それを計画の中に取り入れていく」っていうことに私もすごく大賛成で、しかもそれが川西市という単位で、仕組みとしてちゃんとやるっていうことが、行政の取組みとしても非常にインパクトがあって先駆的なものになるのではないかと思います。

施策のこととか、確かに子どもの年齢とかによっては非常に難しいとは思いますが、それも社会科教育の一環としてであったりとか。

あとシチズンシップですかね。イギリスとかだと、ちっちゃいときから、大人になってちゃんと意見が言えるように、学校の中で意見を言う練習をするんですね。そういったものって難しいかもしれないけど、教育委員会等との連携を図って、教育と、福祉などの政策とのコラボというか、一環として取り組めたらすごく有意義なのではないかなと思いました。

会長 ありがとうございます。山本委員も手が挙がっておりますどうぞ。

山本委員 子どもの意見というところで、例えば小学生なり中学生なりが子ども議会みたいな感じで参加する、みたいなものもあるんですけど、結構難しいかもしれないんですが、小さな子どもたちの意見を掬う手段があったらいいなと。やっぱりそういう会に出てくるのって、本当に優秀で生徒会役員しているような、賢くて、大人の意見を若干忖度できるような子が出てくるイメージもあって。

実はですね、うちがちょうど今中学と小学の息子がいるんですけど、小学校の息子が今年からちょっと不登校になっていまして。この前のかわにしMeetingでも、他のお母さんからそういった深刻な意見もあったんですけど。

不登校の問題もいろいろ要因があって、例えば同級生のいじめもあれば、先生が嫌とか、教育制度そのものが嫌とかいろいろあって、それを拾い上げるってなったら本当に少数意見になると思うんですけど、意見が出せる場ってというのがあるといいんじゃないかなと思います。もし、子ども議会とかそういうチャンスがあれば、うちの子に出てみて言いたいんですけど、不登校の子がそんな場には絶対出ないんですよ。どういう形がいいのかは全然思い浮かばないんですけど、「市長と飲み、子どもを連れていく」とか、何かしらあったらいいなっていうのは思います。大人も子どもも、そういう声の小さい人の意見を吸い上げると。

ちょっと余談なんですけど、さっきの明石に負けないうっていうキャッチフレーズでいうと、「兵庫で2番目に子育てしやすいまち」とかどうかなって。すいません余談です、以上です。

会長 ありがとうございます。ぜひお子さん連れで市長と一緒に飲みに行きましょう。どうぞ、神谷さん。

神谷委員 私沖縄から今こっちに移り住んで、単身赴任で3年目になりますが、もともと福祉をしていて、沖縄、川西市、神戸でやっています。

3年前から、沖縄県と県のモデル事業で若年の無業者状態の子たちの支援をやっていて。中卒高校中退、18歳未満で仕事にも学校にも行っていない子たちをどうやって支援していくかっていう内容で、3年間、毎回手法を変えているんですね。うまくいってもいなくてもいいから、とにかくどんな手法で関わるかと。どんな手法でやったらうまくいくか、いかないかっていうのをずっとやって、今取りまとめしています。

うちも子ども3人いて、真ん中の長男が小6で今、絶賛不登校中で。6年生になった瞬間「俺学校行かん」と言い出して。さっきの不登校の子たちとか、引きこもりの家庭を抱える人たちが川西に移り住んで、その子たちを変えていける。それが、その子たちを変えないといけないのか、社会が変わらないといけないのか、視点によっては変わってくるんですけども。そういう力がある地域って、多分、人が人を育てる地域になるんじゃないかなと思って。多分、誰だってそれは高齢になっても同じことで、行き場所がたくさんあったりするとそういう子たちがまた夢を描けるとか、夢を語れるとかっていうのは、度量が広がるような社会になるんじゃないのかなと、先ほどの山本さんの話聞いていて思いました。

会長 ありがとうございます。

お言葉にもありましたが、一人一人の小さい声を丁寧にどう感じ取ってあげられるか、そして一緒に考えていけるか。その中で、子どもも大人も育っていくような、それが今回の総合計画の本来の姿になると、良い計画になっていくんだろうなと思います。

もちろん、大変難しい話ではあるのですが、小さな声にどこまで耳を傾け続けることができるか、そしてそれを計画プロセスや計画の具体的な目標、あるいは施策にどう上手に落とし込んでいくかという、その工夫が問われていると思いながら、お話を聞いていました。これはまた今後、実際に計画をつくっていく段階で工夫を重ねなければならないかな、と思いました。

そのほか、各委員からいかがでしょうか。先ほど、子どもたちの声を聞くことで川西市が兵庫県内市町村で一番になるんだと、そんな話もいただきましたので、ぜひ実現したいなと思っております。中野委員どうぞ手が挙がりました。

中野委員 今、子ども議会の話が出ましたが、川西市全体で子ども議会をするとすると、なかなか難しいところがあると思うので、地区ごとに、そのような機能のある子ども議会のミニ版をつくって、それに少額でもいいので予算をつけて、自由に施策をやらせてもらう、というようなことにできないのかと思っています。

例えば黒川地区と川西能勢口地区ではやる施策であったり、興味あるところが全く違うので、それぞれ住んでいる子どもたちが、どういうことに興味を持って、どういうまちづくりをしようとするのかということを議論いただいて、少額でもいいので、それに予算をつけて実行していくというようなことをすれば、何らかの変化が出てくるのかと思います。

ただ、かなり手間のかかる話なので現実的にはどうかはちょっとわからないですけども。そういう試みも面白いのかなあと山本さんの話を聞いていて思いました。以上です。

会長 ありがとうございます。子ども議会を地区ごとにと。神谷委員どうぞ。

神谷委員 めちゃめちゃ乗っかりたかったです、その話。子どもたちに、例えば「今、ここはすごく高齢の世帯で、交通難民とかになりつつあるよ」とか、「みんなだったらどうする」というふうに、別に子ども・子育てに力を入れるけども、地域の課題は無視しないでいいと思うんですよ。そこで地域の課題を子どもたちが考えると、それをやるには確かに大変かもしれないですけど、それは別に必ずしも行政職員でやるんじゃなくて、かわにしMeetingの中から何名かNPOだったりコーディネーターみたいな人を育てていって、その人がまた地域のコーディネーターになるみたいな。前もこんな話をしたかなと思うんですけども。だから子ども議会のそういうサポーターは、地域の大人がやるとか、みんなが、その地域をまわしていく。何かすごくいいなと思いました。

会長 ありがとうございます。伊藤委員も手が挙がってますので、どうぞ。

伊藤委員 さっき地域ごとに、ということ中野委員がおっしゃられていて、多分、中学校区ごととかにするとやりやすい。子どもたちも自分の校区のことを把握して、保護者の方とか、その地域の大人とか社会資源も参加しやすくして、その後全体会みたいなものもあって...とし

ていくといいのかなと思いました。ただ、おっしゃる通りすごく手間ですけれども、その中で予算つけていただいてっていうのが、中学校区ごとだとイメージ湧きやすいのかなと思ったんです。

あと、川西市って子どもの人権オンブズマン制度が日本で最初につくられた自治体ですね。やっぱり子どもの人権救済とか、困っている子どもも不登校とかいじめとか救済もやってきたけれども、それにとどまらず、その苦情解決だけではなくて、よりよくしていくための意見表明とか、「こういうこともやっていくんだ」ということでステップアップみたいな感じがして、すごくいいなと思いました。

会長 ありがとうございました。上村委員どうぞ。

上村委員 今話されていることがすごく素晴らしいことで、ぜひお願いしたいと思ってるんですけど、そのプロセスの中で「これは総合計画を策定するプロセスなんだ」ということをきちり認識していただくことがとても重要で、このプロセスを経て総合計画というものをみんなで作るんだっていうこと。きちりそのミーティングの中に入れていかないと、今何のためにやっているかわからなくなりますよね。なので、必ず毎回「そのためにやるんです」と説明していかないといけないかなと思っています。

それとあと、地方創生総合戦略をつくったとき私委員だったんですけど、先ほど山本さんも言われたように無作為抽出でやったんですね。あの時、私、様子を見ていたんですけど、まあまあ大変でした。多分職員さんが結構大変でした。

やはりとても重要なのは、先ほど言われたように、地域のコーディネーターですね。行政の方じゃないコーディネーターを、どうやって育てるかもしくはそういう方をお願いできるかが、多分鍵だと思います。そこまでの時間があるかどうかちょっとわからないですけど、そういう方に育てていただくもしくはそういう形にやっていただくということがとても重要だと思います。

それでも、全体として出てきたものが、ベクトルが合わない可能性があってですね。そのときにどうやってまとめるのかっていうところの問題は、ちょっとまだあるのかなというような気がしています。取りあえず今のところは以上です。

会長 どうもありがとうございました。計画づくりに向けて、無作為抽出型を選択するにしても、そこでのコーディネートの在り方が問題になりますし、さらにはそこでの議論というのは大体収束しないことが多いんですけど、そんなのをどういうふうに、計画にきちんと落とし込んでいくことができるか、発言を計画に引き受けることができるかと、このあたりはやはり見通しを持ちながら進めていかざるをえないかな、と思いながら聞いていました。ありがとうございました。

中野委員、手があがりましたのでどうぞ。

中野委員 すいません、多分私と上村さんのイメージがちょっとずれているのかもしれないのですが、さっきの「子ども議会を地区ごとに」ということに関しては、この総合計画の中身の議論ということではなく、「子どもの意見を聞きます」という市の施策の具体的例として、

子ども議会を設置して予算をつけてやりますという一つのアウトプットだと思っています。なので、子どもの意見を聞いて総計に反映するというのではなく、どちらかというアウトプットの一つの形としてどうかと、そういう思いで述べさせていただきました。

会長 そこは皆さんご了解いただいているかと思います。策定のプロセスでの子どもたちの参加を進める、それから子ども議会あるいは地区別での子どもたちの声をずっと聞いていくような、そういう施策というのはこれ計画の具体的な施策や事業として展開していこうということです。

ただ、今はまだ基本構想の段階ですので、そういう考え方を今後ぜひ検討していきたいということでお伺いしておきたいというふうに思いました。ありがとうございました。

大分時間も無くなってきましたが、そのほかいかがでしょうか。ぜひ、計画の見直しとか、あるいは社会経済的な様々な変化にどう柔軟に対応していけるか。このあたりも本当は計画の中にそうした市民の参加や市民の声というのをしっかりと聞いていく、そして臨機応変に対応できるような仕組みというのをどう組み込んでいくかという、そういう議論にも繋がってくるのかもしれませんが、このあたりももし何かアイデアあるいはご意見ございましたら、併せていただければと思いますが、いかがでしょうか。はい、神谷委員。

神谷委員 プラスの要因と、マイナスの要因。例えば働くにあたって、給料が増えるとか、休みが多いとか、有給がとりやすいというプラスのモチベーションに繋がる部分と、マイナス要因、労働時間がないとか体力的にきついとか。昔の傾向としては、プラスの要因が強ければ、マイナスをみんな我慢できたような時代だったと思うんですね。

でも最近、僕も大学で非常勤とかやる中で見ていると、若い人は面倒くさいとか、ちょっとしたマイナスがあると、すぐやりたがらないような傾向があるなんていうのを感じます。夢というよりも、最低限、こういうことはしたくない、というところが多いのかな。となってくると、今後はプラス要因を強く出すよりも、マイナス要因が少ないほうがいいのかなどは思うんですけども、8年後の計画ってなってくると、多分30代~40代の人が40代~50代。そうすると、まだまだ昭和的なノリでいけるのかなという。これが16年後となると、それはもう誰にもわかんないんじゃないのかなと思うんですが。

コロナみたいに何が起こるかわからないんですけども、個人的には、この8年間っていうのは社会経済の気質的なところはまだ変わらないんじゃないのかなって思います。なので、そんなに深く考えずに、今まで通りやってもいいのかなとは思っています。

あと最後に絶対言おうと思っていたのが、中野委員の発言なんですけども、3回ぐらい目頭が熱くなってですね。やっぱり誰もが自分に恩恵があるとか、メリットがあるほうが良いっていう中で、ここでは年齢的にも先輩にあたる方が、ずっと子どものことを本気で話してくれることに対して、「こういう大人になりたいな」という感想を言って終わろうと思ったので、以上です。

会長 ありがとうございました。本当に良いまとめのコメントをいただいてしまいました。でもまだお話になりたい方いらっしゃいましたらいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

事務局あるいは市長さん何かございますか。どうぞ。

市長 1点だけ。皆さんからいただいたご提案で、子ども議会のバージョンアップというのは、私も実はめざしていました。子ども議会、山本さんからありましたとおり、本当にどこかの時期からですね、優等生の方が、何か最後には必ず市長に忖度してきんたくんについて質問するみたいな。何か、忖度子ども議会ができ上がったんじゃないかなという印象を持ってました。いざ子どもが参加しようと思ったら「トイレを綺麗にしたい」みたいな意見。いやそれはちょっと無理だから、みたいなので提案させてもらえなかったみたいなことを聞いています。

ただ、子ども議会の問題点というのは、「要望して終わり」という。これ、要望するというのも大切な行為ですけど、やはり民主主義っていうのは相手の意見も聞いて、いいところを結びつける、探し出すという行為ですから。予算を与えてという行為というのは、実はやってみたいなあという政策の一つでした。チャレンジとして1回教育委員会に渡したらですね、最後までうまく完成しなかったんですけど、子どもがプレゼンをして、事業化するみたいな方向にちょっといったという経緯もございます。作り直す状況の中で、中学校区なのかどうという単位かわかりませんが、アウトプットとしては一つ、「子どもが参加するまちづくり」みたいな。

ただ「子ども」と言ったほうがいいのか、「子ども若者」と言ったほうがいいのか。若者まで言うちょっと幅広いですけど...というところを悩みながら、皆さんから私自身が材料いただいたなと思います。

私自身やっぱりですね、総合計画とか基本構想で、こんなでかい、将来のまちづくりの方向性を決めるってもうめちゃくちゃ不安なんですよね。この不安に打ち克とうと思ったらこれはもう、たくさんの人にこれ以上ないくらい話を聞いて決めたと。抜け漏れないくらい俺は聞いたんだという、やっぱりここが、物事を決める最後の部分になるのかなと思いますので、次回もまた、忌憚のない意見をいただければと思います。よろしく願いいたします。ありがとうございました。

会長 市長さんからも大変前向きに、子どもたちの参加ということについては、しっかりやるということでお話をいただきました。

また、もう一方では総合計画への思いもいただきました。もし委員の皆さん方で何かございましたら、最後になりますが、いかがでしょうか。特によろしいでしょうかね。

それでは今日の総合計画、特に基本構想をこれからどういうふうにつくっていくのかということについてご意見いただきました。どれくらいコンパクトに、しかも共有していけるような計画につくりあげるのか、ということが事務局からのご提案でありましたが、もう一方では、委員の皆様方からはむしろ、市民の方々が本当に共有できるものというのは、しっかりつくる。それがひょっとすると、そこを手がかりにして幅広く市民の皆さん方が関心を持つような、そういう総合計画になっていくはずなので中身は分厚いものになるだろうと。翻って、そういうアピールができるような分かりやすいところをきちんとつくったらどうだろうか、というご意見をいただきました。

併せて、むしろ問題なのは共有をしていくということのために、市民の皆さん方と一緒に

くっていく、そのプロセスをどう本当にこれからしっかりとつくっていくか。それが、子どもたちの参加であったりあるいは多世代多様な人たちが関わって議論をするような、ダイアログという言い方もしていただきましたが、そういう場づくりができるかということでもありました。

この辺りは無作為抽出型の市民参加も含めて、何もかもはできませんけれども、今後の計画づくりの中でこうした参加プロセスというのを、いかに大切にしていくのか。そして、この計画そのものが、その主要な事業を具体化していくにあたり、これからの政策として市民の参加参画というのを大きく組み込む。その中でも特に、子どもたちの参加というのは大きいみたいです。そういう参加を何か考えていくような、そういう計画になっていくといいなということでお話をいただきました。

また8年間の計画ということで、見直しは当然あり得ると思いますし、そこも市民参加の仕組みというのをしっかりしていけば、こうした見直しというのもむしろスムーズに進んでいくのではないかと、というふうに思います。8年程度であれば基本的なコンセプトは変わらず、むしろ、その延長上の中で時々必要性に応えながら修正を加えていく。そういうプロセスを、市民参加でつくっていくということで、ひょっとすると、これまでにない計画のメンテナンスの仕方もできるかもしれない。評価のところまではなかなか入りきれませんでした。今日のところはそのくらいの議論をいただいたのかなと思っています。

少し大ざっぱなまとめ方で恐縮ですけれども、本日のところはまだこれからの、議論のためのたたき台、それをどうつくるかということでご議論をいただきました。次回以降は実際どんなものをつくっていくかという、そういう議論をしていければと思っておりますのでよろしくお願ひしたいと思います。

それでは大変恐縮ですけれども、会議の時間、そろそろ終了が近づいて参りました。本日、皆様方のおかげでとても良い議論を、本当にご意見がたくさん出てくるので、なかなか止めたくないところもあるんですがやっぱり時間はきちんと管理したほうが良いと思っておりますので、このあたりで本日の議論は閉じたいというふうに思っております。

その他特段なければ、事務局にマイクをお返しいと思います。よろしいでしょうか。

(「なし」の声あり。)

それでは事務局にお返しさせていただきます。長い間ご協力ありがとうございました。

事務局 ありがとうございます。

本日議論いただきました内容につきましては、皆様方からの意見を踏まえ修正した後に会長へご確認をいただいた上で、引き続き次回の審議資料をさせていただきたいと思っております。議事録につきましても、皆様へ後日ご確認いただきたいと考えております。

なお、本日の開催にあたり、こちらの不手際で皆様にご不便をおかけしましたことを改めてお詫び申し上げます。大変失礼いたしました。令和4年度第2回審議会の詳細につきましても、後日、事務局より改めてメール等にてご連絡いたします。

それでは、以上をもって、令和4年度第1回総合計画審議会を終了いたします。ありがとうございました。

【終了時間：午後7時50分】

